

バスツアーで成田・佐原・酒々井を訪ね、 歴史に触れ、紅葉を満喫した一日でした

日向洋美(文化交流部会)

“Oh! What a beautiful morning!” 思わずミュージカルの一節を口ずさむような青空の下、11月10日(木)、私たち一行28人は習志野市役所を出発しました。今回のバスツアーの目的地は、紅葉の成田山新勝寺、水郷の佐原と酒々井プレミアム・アウトレットです。

新勝寺境内では菊祭りが開催されており、1本の幹から何百の小菊の花をつけた鉢や、初めて見る平たいお皿の様に花びらが開いた菊等に圧倒されました。広い境内に紅葉の木々と重要文化財の御堂が調和して建ち、平安時代中期に開山した歴史の重みと、維持してきた日本人の心に潜む信仰心を感じました。お休み所では、最近襲名披露した市川團十郎にちなんで、江戸歌舞伎の初代團十郎からの成田家との関係と歴代團十郎の展示もありました。皆様それぞれにお寺の重要文化財や美しい秋を満喫なさったことでしょう。

佐原では3時間近くの自由見学で、私は吉村会長を含めて数人で老舗の鰻屋に直行。お味も量も大満足でした。お腹が満たされた後は合流した仲間と小野川観光船を借り切って、船上からゆっくりと北総の小江戸を楽しみま

した。観光船の乗場は日本地図を初めて作った伊能忠敬旧宅の前です。

今回のバスツアーでは吉村会長に伊能忠敬のお話をして頂きました。その中で特に印象深かったことをご紹介しますと思います。忠敬が測量を始めたきっかけは、帝政ロシアの脅威を感じた江戸幕府の内密な依頼もあったとのこと... 前回のバスツアーで見学した日露戦争の戦艦「三笠」やウクライナ侵攻が頭をかすめました。忠敬は江戸時代の平均寿命が40歳代の時に、50歳から天文学を学び55歳から測量の旅に出たのです。道も整備されていない所を一日40km(同じ歩幅で測量しながら)、17年間も日本国中を歩き続けて日本地図を完成させました。正直であることを家訓とし、物事を立体的に視る人でした。

佐原の東薫酒造でお酒の試飲と買い物の後、酒々井アウトレットに到着。3時半までそれぞれに買い物やアフタヌーンティーを楽しみました。暖かい紅葉のさなかに、改めて日本の歴史と自然の美しさに触れて満たされた1日でした。皆様に感謝！次回は皆様の参加をお待ちしております。



成田山新勝寺で



観光船で小野川の舟旅